

## ★ ネギえそ条斑病の発生実態について ★

本年6月、京都市伏見区の露地栽培ネギにおいて、Iris yellow spot virus (IYSV)によるネギえそ条斑病が府内で初めて確認された(発生予察特殊報第1号、平成26年7月2日)。そこで、7月～8月にかけて府内での本病の発生実態について調査したところ、山城及び南丹地域で発生していることを確認した。

### ネギえそ条斑病の病徴

葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後、淡黄色～白色のえそ条斑を生じる(写真 円囲み)。大きさは10～15mm程度である(写真)。症状が進むと拡大癒合して大型えそ条斑となり、葉が萎凋枯死する。



写真 ネギえそ条斑病の病徴

### ネギえそ条斑病の発生状況

- (1) 府内のネギ栽培ほ場67ほ場(露地:53ほ場、ハウス:14ほ場)(24地点)において、目視によるえそ条斑症状の調査(25株について5段階評価、図2の脚注を参照)及びELISA検定による感染確認を実施した結果、山城及び南丹地域の42ほ場(14地点)で本病が発生していることを確認した(図1)。
- (2) 本病の発生を確認したほ場では、ネギアザミウマの被害度とえそ条斑病の発病度の間に有意な相関が認められ、ネギアザミウマの食害が多いほどえそ条斑病の発生が多いことが明らかになった(図2)。このことから、ネギアザミウマの被害を抑えれば、本病の発生を抑制することができる。
- (3) また、明確なえそ条斑症状はないものの、ELISA検定によりIYSV感染が認められるほ場が、南丹、中丹及び丹後地域の9ほ場(7地点)で確認された(図1)。

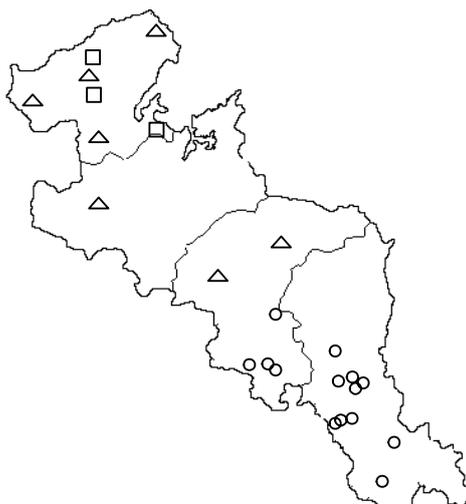


図1 ネギえそ条斑病の発生地域

- ：えそ条斑病の発生が確認された地点
- △：えそ条斑症状はないがIYSV感染が確認された地点
- ：えそ条斑、IYSV感染とも確認されなかった地点

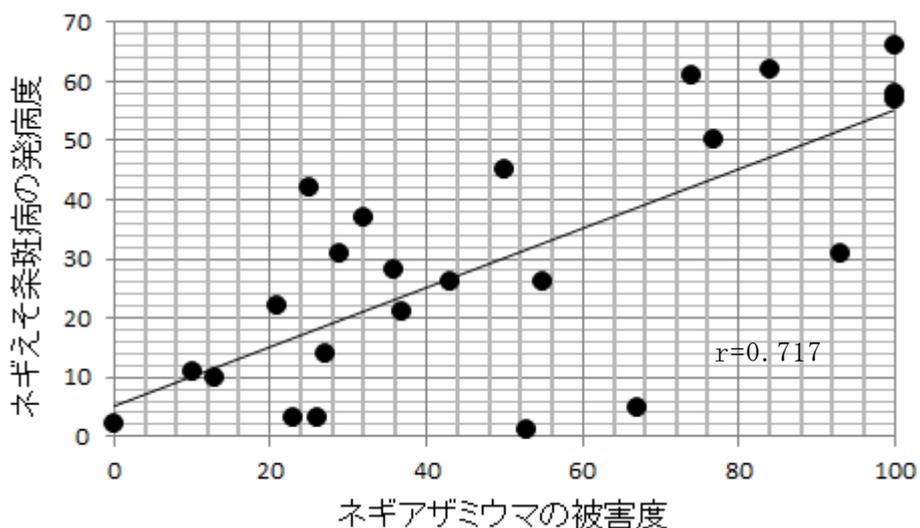


図2 ネギえそ条斑病の発病度とネギアザミウマの被害度との相関

ネギえそ条斑病の発病程度及びネギアザミウマの被害程度；

A:発病葉率・被害葉率 100～51%、B:同 50～31%、C:同 30～11%、D:同 10～1%、E:同 0%

ネギえそ条斑病の発病度・ネギアザミウマの被害度 =  $(4A+3B+2C+1D) / (A+B+C+D) \times 100$

### 防除対策

○本病は、ネギアザミウマによって媒介されるウイルス病であることから、**本病の防除にはネギアザミウマの防除が有効**である。

○ネギアザミウマはユリ科、ナス科、ウリ科やアブラナ科など広範な植物に寄生すること

から、**発生源となるほ場周辺の除草**を行う。ナス、キュウリやキャベツ等の農作物にも寄生することから、**ほ場周辺のこれらの農作物でも防除を徹底**する。また、**ネギアザミウマが寄生した残渣は、埋める、堆積しビニル被覆する等、適切に処理**する。

○ネギアザミウマの防除については、薬剤散布による防除を実施する。**定植時には粒剤による初期防除、生育中は粒剤や散布剤による防除**を行う。防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守すること。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと。

○ネギアザミウマの薬剤感受性低下が懸念されている。薬剤散布後は効果を十分に確認し、**感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布**する。また、**感受性の低下を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布**する（表1）。

○**施設栽培では、開口部の防虫ネット設置やUVカットフィルム被覆**を行う。**露地栽培でも、防虫ネットによる被覆**が有効である。防虫ネットは、**赤色ネットを用いるとより効果が高まる**。

表1 ネギアザミウマまたはアザミウマ類に登録のある主な薬剤

系統名	薬剤名	希釈倍数・使用量(kg/10a)	使用時期	使用回数
カーバメイト系	オンコル粒剤5	3～6kg	定植時・生育期(収穫45日前まで)	1回
	オンコルマイクロカプセル	1000～2000倍	収穫14日前まで	1回
有機リン系	ランネット45DF	1000～2000倍	収穫7日前まで	4回以内
	マラソン乳剤	2000～3000倍	収穫7日前まで	6回以内
	ダイアジノン乳剤40	700～1200倍	収穫21日前まで	2回以内
	エルサン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	1回
	スミチオン乳剤	700～1000倍	収穫21日前まで	2回以内
	サイアノックス乳剤	500～1000倍	収穫21日前まで	2回以内
ピレスロイド系	アグロスリン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
	アディオオン乳剤	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
ネオニコチノイド系	ダントツ粒剤	3～6kg	収穫3日前まで	4回以内
		6kg	植付時	1回
	アクタラ粒剤5	6kg	播種時	1回
	ベストガード粒剤	6kg	定植時	1回
	スタークル粒剤	6kg	播種時、定植時	1回
		6kg	生育期(収穫3日前まで)	2回以内
	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット) 400倍灌注	定植前日から定植時	1回
		2000倍	生育期(収穫14日前まで)	1回
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫3日前まで	2回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	4回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内
		200倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット)	定植前日から定植時	1回
スピノシン系		2000～4000倍	収穫14日前まで	2回以内
	スピノエース顆粒水和剤	2500～5000倍	収穫3日前まで	3回以内
マクロライド系	ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
	アグリメック	500～1000倍	収穫3日前まで	3回以内
キナゾリノン系	アニキ乳剤	1000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ウララDF	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内
その他	コルト顆粒水和剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ハチハチ乳剤	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	プレオフロアブル	1000倍	収穫3日前まで	4回以内
	カスケード乳剤	4000倍	収穫14日前まで	3回以内

